

ご自由にお持ち下さい



済生会
だより

ならしの

千葉県済生会習志野病院 院外広報誌

No.34 2015.春号



千葉県済生会習志野病院

Contents

- アンギオ(血管造影)装置が2台へ
- 看護部だより ～認定看護師の紹介～
- 地域医療ネットワークシステムの導入について
- 糖尿病講座のご案内

今号の表紙

病院入口のさくら

撮影：広報課



すべてのいのちの虹になりたい

病院の理念

患者さんの権利を尊重し、共に考える良質な医療の提供、すなわち患者さん指向の医療をめざし、もって地域住民の健康と福祉の増進に努めます。

病院の基本方針

- ・職員が誇りを持ち、患者さんが満足・安心できる効率的な医療の提供に努めます。
- ・すべての診療情報を患者さんにお伝えします。
- ・信頼される医療を行うために研修、研鑽をいたします。
- ・地域の医療機関との連携のもとに中核病院としての役割を果たします。

アンギオ（血管造影）装置が2台へ

アンギオ（血管造影）とは

手や鼠径部の動脈（静脈）から、細い管（カテーテル）をX線で透視しながら、血管内部の目的部位まで誘導し、細い管（カテーテル）からX線を遮断する「造影剤」という薬剤を注入し、単純X線の撮影では確認しづらい、血管の狭窄や動脈瘤・がんなどの血管病変の診断や治療に役立てる方法です。

当院では平成25年12月から、アンギオ装置が2台になりました。うち1台はバイプレーンといってX線管と検出器が2セットで1回の造影で2方向の撮影が可能な装置になりました。

【アンギオ（血管造影）装置による主な検査】

心臓カテーテル検査
PCI、カテーテルアブレーション
脳血管撮影



（写真1：シングルプレーン）



（写真2：バイプレーン）

特長

- 1 心筋梗塞、脳卒中、がんなどの病変部位の形や血管の狭窄の程度や位置を確認することができます。
- 2 病変に対してカテーテルによる血管内治療IVR(Interventional Radiology)もおこなわれます。この治療のメリットは外科的手術に比べて、頭・胸・腹を切らないため身体への負担が少ないことです。
- 3 画像処理で血管以外の骨や臓器などの不必要な画像を消して、血管だけの画像を得ることができるDSA(Digital Subtraction Angiography)の機能があります。
- 4 身体のまわりを回転しながら撮影をおこない、立体的な血液像を撮影する3D-RA(3Dimensional Rotational Angiography)の機能もあり、診断や治療計画から術後の管理にも多く利用されています。

最後に、多くの機能をそなえたアンギオ装置は、検査や治療を受ける方の放射線被ばくの低減にも十分配慮されたシステムなので、安心して検査や治療を受けていただけます。

循環器科：小林副院長からのメッセージ

カテーテル治療は多くの科で手術と比較し、より低侵襲なため、発展、進歩を続けています。

当院循環器科でも、急性心筋梗塞、狭心症に対する冠動脈形成およびステント留置術、閉塞性動脈硬化症に対する末梢血管形成術、腎血管性高血圧に対する腎血管形成術、頻拍性不整脈に対する心筋焼灼術、下肢静脈血栓症に対するフィルター挿入術など多くの治療を手掛けてきており、1台のアンギオ装置のみでは緊急性のある症例が搬送された場合、予定検査、治療の方には待っていただくことが増えてきてしまいました。

今回、アンギオ装置が2台に増えることとなり、より多くのカテーテル治療が可能になっただけでなく、緊急時の対応がよりスムーズに進めることも可能となりました。

近隣の医療機関の先生方との連携や救急車の受け入れも含めて、今まで以上によい治療が提供できると考えています。

脳神経外科：中村副院長からのメッセージ

画像診断技術の進歩により、大部分の脳神経系疾患の診断や治療方針の決定は、CTとMRIでおこなわれるようになりました。しかし一部の病気では、より精密な血管の形状や血流動態の評価のために脳血管撮影が必要であり、病気の性質によっては、通常脳神経外科手術ではなく、カテーテル治療をおこなうことがあります。当院で今回導入されたアンギオ装置を用いることにより、これまでよりも脳神経疾患の診断精度を上げ、治療の幅を広げることが可能となりました。特に、頸部動脈狭窄症に対するステント留置術、脳動脈瘤に対する血管内コイル塞栓術、もやもや病の術前診断、脳血管奇形の術前診断には有用であり、より精度の高い診断と幅広い治療を提供できると考えています。

看護部だより

～認定看護師の紹介～

皮膚・排泄ケア 花澤美星看護師

2011年4月から皮膚・排泄認定看護師として勤務しています。おもな活動は院内の褥瘡対策です。皮膚科医師、薬剤師、管理栄養士、各セクションから選出された専任看護師とともに、毎週、褥瘡回診をおこなっております。当院には、褥瘡予防に欠かせない4種類の予防マット計56台の他に、より高機能を備えた自動体位変換機能付きのエアーマットレスを導入し、寝たきり患者さんの安全と安楽をより充実させています。

もうひとつの活動は2011年6月に開設したストーマ外来で、患者さんやご家族の方の不安や悩みに答え、安心してその人らしい生活ができることを心がけサポートしております。

皮膚・排泄ケアを通して、皮膚の役割の大切さを知ると同時に、日頃の正しいお手入れが健康な皮膚を維持し、スキントラブルの予防につながることを実感しています。現在、お肌の悩みを抱えていない方も将来に備えて、今日からすぐ取り組んでみてはいかがでしょうか。今後は地域の皆様にも貢献できるよう努めていきたいと思っています。



集中ケア 鎌田あゆみ看護師

集中ケア認定看護師の資格を取得し13年目になります。2011年10月から当院ICUで勤務しています。ICUと聞くと「重症」「こわい」と思われるかと思います。たしかにICUに入る患者さんたちは重篤な状態で高度な治療を受けており、周囲には医療機器、自由に話すこともできない場合もあります。そのような状況でも患者さんの人格を尊重し、「その人らしく」入院生活が送れるように日常生活の援助や診療の補助を心がけています。

最近の考え方では「早期離床」「早期リハビリテーション」「痛みをコントロールする」ことで合併症なく回復することがポイントとなってきています。「重症だから寝かせておいて」といった考え方ではなく、積極的に動かし、ベッドから起こしていくのです。ICUに入院している時からすでに退院を見据えて必要なケアを提供していくことが大切です。

また、月曜日は病院併設の済生会ならしの訪問看護ステーションへ出向し、自宅で暮らしている方々のケアをおこなっています。今後、重い病気の方も地域で暮らすようになり訪問看護の需要が増えてくることが予測されます。病院と自宅では使用できる医療器材に大きな差がありますが、五感を最大限に活用しながら観察し考える(アセスメント)ことで看護師も大きな成長ができます。ICUと訪問看護は両極端ですが、「生きる」という視点からするとどちらも力強く、両方とも私は大好きな場所です。



糖尿病看護 尾高泉看護師

2013年に糖尿病認定看護師の資格を取得しました。病棟勤務と併せて火曜日に認定看護師として活動をしています。

糖尿病は生涯にわたり、つき合っていく病気です。糖尿病看護では、糖尿病をもつ人を「患者さん」ではなく「糖尿病を持ちながら社会や家族の一員として生活している人」と捉えて、病気や合併症の悪化を防ぐとともに、その人らしく健やかな生活を継続できるよう支援します。

主な活動として、代謝科外来での療養支援としてインスリン自己注射や血糖自己測定の手技指導、血糖管理や合併症の進行予防のための療養生活が送れるよう、寄り添い、一緒に考えるよう心がけて支援しています。また、人工透析の予防指導では、医師や管理栄養士と共に朝・夕のカンファレンスをおこない、ひとりひとりを支援しています。

その他の活動としては、医師・管理栄養士・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師・臨床心理士とチームを組み、「糖尿病講座」や「I型糖尿病患者の会」の企画・運営や看護・健康フェアでの看護相談、11月には世界糖尿病デーイベントをおこなっています。

今後も、糖尿病の啓発活動に取り組んでいきたいと思っています。



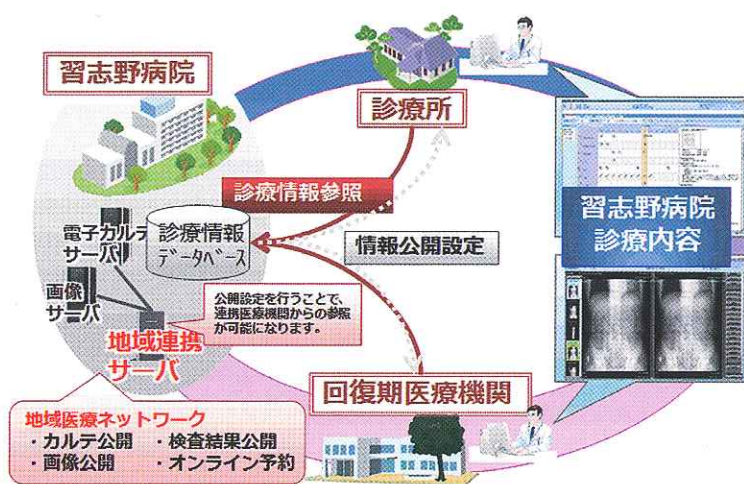
地域医療ネットワークシステムの導入について

兵藤 敏美 企画戦略室長

この地域医療ネットワークシステムの導入の目的は
①連携医療機関の皆様との連携環境を更に更新できること
②患者さんにより安全で高質な医療の提供ができること
③連携業務のスピード化が図られることなどを担うシステムと考えて進めております。

具体的な機能は、当院の電子カルテ上にある「診療情報」のうち①検体検査結果②画像③薬剤、注射の処方④入退院歴⑤医師サマリの各情報を当院に連携申し込みいただいた連携医療機関がインターネットを介し、患者さんに同意いただいた場合に上記診療情報をリアルタイムにご参照いただけるシステムです。

このシステムは現在、すでに全国で稼働実績が多くあり、セキュリティ対策も充分におこなわれているシステムであり、当院での診療情報を連携医療機関の皆様と共有することで、患者さんの症状や診断に応じた最適な診療方法の検討や適切な医療を連携医療機関の皆様と今まで以上に提供できることと期待しております。



糖尿病講座のご案内

当院では、奇数月に糖尿病講座を開催しています。参加費は無料ですので、是非ご参加ください。なお、人数に制限がありますので、準備の都合上、必ず事前に予約をお願いいたします。

お申し込み・
お問い合わせは、
内科外来まで

5月の講座（第1回）

日時 5月28日(木) 14:00～16:00
場所 当院8階講堂
テーマ 糖尿病性神経障害
食事療法入門
日常生活の注意点「その1」
検査値の見方

7月の講座（第2回）

日時 7月24日(金) 14:00～16:00
場所 当院8階講堂
テーマ 糖尿病性眼症
検査値の見方
薬物療法入門「その2」

なお、日時・内容は変更する場合がございます。

お知らせ

「済生会だより ならしの」が
No11(2009年夏号)より病院ホームページからご覧になれます。

発行/千葉県済生会習志野病院

〒275-8580 千葉県習志野市泉町1-1-1 TEL 047-473-1281 (代) FAX 047-478-6601

ホームページ <http://www.chiba-saiseikai.com>